

人とのつながりと防災について

なぎさ小学校 五年三組 岸本 奈々

岸本さんは、まだ小さい時に、とても大きな地震にあっでいて、地震の後は、夜、お母さんと、いっしょに、水をくみに行き、私は、毎日、水が出るまでずくと歩いて水をくみに行くのは大変で、悲しいと思う。泣きたくなると思う。

今のくらしでは、じゃぐちをひとひねりするだけで、たくさんのお水が出るような、とても

便利な時代です。

ほかに、岸本さん以外にけいけんした人もいる。

その人達は、昔の生活と、今の生活でなにかとても幸せなものを見つけていると思う。

昔までは、ガスや電気や水がすべて使えなかった、でも今の生活では、昔とくらべて、なにか、特別な幸せを見つけていると思う。

私だと、今日の話しを聞いて、昔のことがよく分かったから、私は、今の生活で特別な

幸せを見つけた。

一つは、家族とずっと一緒ということ。

地震の後、家族の一人や二人や三人と家族がいなくなり、最終的には一人の人がいる。

その人は、ずっと悲しみのおく深くに、いると思う。

そう思えば、今は、特別な幸せをみんなが手にしていると思う。

二つ目は、友達とずっと一緒ということ。

遊ぶのは、いつも私のそばにいる子。

たけど地震の後は、その子は私のそばにいないときづいた時のショックはとれだう大きいか。たぶん悲しみでたえられなくて、その子のことばかり思っていると思う。そのことを思うと友達とずっと一緒にいることは特別な幸せだと思う。

だから私はこれからはもっといつも以上に家族や友達をもっと大切にしよう、岸本さんの話を聞いて思いました。